

Kaitakusha's

CONTEMPORARY

English-Japanese

Dictionary

英和辞典
現代英和辞典

Kaitakusha's

CONTEMPORARY

English-Japanese

Dictionary

THE
LARGEST
AND
MOST
COMPLETE
DICTIONARY
OF
THE
ENGLISH
LANGUAGE
IN
USE
TODAY



Kaitakusha's
CONTEMPORARY
English-Japanese
Dictionary

開拓社
現代英和中辞典

監 修
A S Hornby

編集主幹
笠 原 五 郎

E V Gatenby
A H Wakefield



KAITAKUSHA

©株式会社 開拓社 1981

開拓社 現代英和中辞典

第1版 第1刷 1981

装丁=アートランド

PREFACE

This English-Japanese dictionary is based on my monolingual English dictionaries which have been used in Japan for many years. Monolingual dictionaries have advantages and disadvantages. Definition in English provides the user with the opportunity of learning through English, of becoming able, in time, to think in English. Monolingual dictionaries are especially useful for those heavy-duty words (the determinatives, adverbial particles¹, prepositions, and such verbs as *come*, *go*, *set*, *put*, *take* which combine so freely with adverbial particles and prepositions). Such words need far more than a mere equivalent in Japanese. They need full treatment to illustrate usage. They need very numerous illustrative phrases and sentences.

There are thousands of words, however, which cannot easily or accurately be defined simply in English. Names of animals could be defined accurately by supplying zoological references. An armadillo is *dasyurus novemcinctus*² and this provides complete identification for students of zoology whatever language they may have as their mother tongue. It does not help the student of English who has no knowledge of zoological terms. If he reads that the armadillo is a small burrowing animal of South America, with a body covered with a shell of bony plates, and the habit of rolling itself up into a ball when attacked, he has some idea of the animal. Such a description (hardly a definition) is a help, and an illustration may give further help. For such words, however, the Japanese equivalent is preferable.

This is true of other classes of words—in botany and anatomy, for instance. The bilingual dictionary is useful for these words because identification is precise and is made quickly.

If a bilingual dictionary such as this English-Japanese dictionary can provide accurate and time-saving Japanese equivalents and, at the same time, provide the advantages of a monolingual dictionary for the classes of words which benefit from fuller treatment, it should be of great value to the learner.

Professor Kasahara and his colleagues have given all their skill and experience to the work of preparing this new dictionary. Their knowledge of the special needs of Japanese students has enabled them to add new features and I am grateful to them.

London 1978

A. S. Hornby
A. S. Hornby

¹ adverbial particle 「副詞群, 副詞的語句」 (about, by, down, in, off, on, over, around, round, through, up など, 通例, これらは前置詞としても用いられる).

² armadillo の学名.

まえがき

A S Hornby, E V Gatenby, A H Wakefield 三氏の編纂による *Idiomatic and Syntactic English Dictionary* 『新英英大辞典』(略称 ISED) [財団法人語学教育研究所版] が開拓社から発刊されたのが昭和17年4月、その第二版として *The Advanced Learner's Dictionary of Current English* 『現代英英辞典』(略称 ALD) [Oxford University Press] が出版されたのは昭和38年9月であり、次いで昭和49年9月にはその第三版として *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English* 『^{オックスフォード}現代英英辞典』(略称 OALD) [Oxford University Press] が発行された。日本の英語教育界が、これらの辞典から受けている恩恵は計り知れないであろう。名詞の [C] (Countable noun 可算名詞), [U] (Uncountable noun 不可算名詞) や動詞型 (Verb Pattern) の表示などは、辞書としては、上記 ISED が世界で初めてそれらの表示を取り入れたものである。それらは、独創的かつ画期的なものである。今日では、それらの表示は、内外の英語辞書、特に英和辞典では、不可欠のものとなってきた。それらは、開拓社が長年にわたって辞書類の刊行に真剣に取り組んできたことによるものであろう。

開拓社の企画の一環としてのこの『現代英和中辞典』は、編者ならびに Oxford University Press の諒解を得て、上記の英英辞典を基にして編纂したものである。その編纂は、それらの英英辞典を翻訳するだけでよいというものではない。それらがもっている特色を十分に取り入れることはもとより、新しい学問の研究成果を盛り込み、かつ、創意と工夫を施し、しかも英和辞典使用者、主として日本人の実際の要望をできるだけ満たすものでなければならない。そこで、高校生・大学生・社会人を対象とする学習辞典であり、かつ、実用辞典でもある新しい辞書を編纂することになったのである。外形は、比較的小型に造られているが、各ページの密度は高いものである。それで、中辞典と銘打った次第である。その基本的な編集方針は次の通りである。

1. 収録語彙については、学習上および実用上で必要と思われる語句を豊富に収録する。さらに、重要な基本的語彙については、適切かつ十分な説明・例示を懇切にする。また、収録語約6万2000語のうち、最重要語に*印を、次位重要語に*印を付けて示す。また、二語および連語見出し語もできるだけ多く収録する。
2. 発音については、従来使われている Jones 式表記を用いて、最新の英音と米音を併記する。使用者にとっては、いずれか一方の表示で足りることと思うが、英音と米音を併記したのは参考のためである。
3. 名詞については、すべて語義区分ごとに [C], [U] の別を表示し、冠詞や複数形などをとりうるか否かなど用法をも把握できるようにする。
4. 動詞については、動詞型 (Verb Pattern) の表示をするとともに、その語の日英両語の機能の差異を語義中の「てにをは」で十分に明示する。また、名詞・形容詞についても、名詞型 (Noun Pattern)、形容詞型 (Adjective Pattern) をそれぞれ表示し、使用上、それぞれの注意すべき構造の指針をできるだけ与え

るようにする。5. 語義・語法・用法については、《 》, (), () 内および▼印の後に有効適切な補足的説明などを盛り込む。6. 比較語・対語については、それぞれの略語 Cf., Qf., Ant., Ant. の後に明示し、必要に応じ、訳語だけでは意味の微妙な差異がつかめない語に用例を示しながらその語のもつ語感や用法上注意すべき点などを解説する。7. 用例については、適切なものを適切な個所に文の形で豊富に入れる。8. 成句については、現代英語で頻度の高いものを重点的に取り入れる。9. 語源については、原則として、重要語について示し、その語が本来の英語であるか外国からの借入語であるかを厳密に区別し、語形の変化をたどれるようにする。10. 語義の理解を助けるために、新味のある挿し絵(950枚)を入れる。

以上の通り、その実現に全力を尽くしたつもりである。

顧みるに、編集作業のこの10年という長い間、Hornby 氏と共に仕事ができたと、およびその間、同氏のこの英和辞典に対する熱意は強く、何回となく励ましの言葉をいただいたことを編集に携わった諸氏とともに喜びとするところである。

なお、この英和辞典を編集するに当たっては、多くの方々の協力を賜わって、感謝に耐えない次第である。それに、別掲の方々には原稿の執筆および校閲でご協力をいただいた。また、企画の段階で財団法人語学教育研究所の比屋根安雄氏、原稿の執筆・整理・校閲など全般にわたって援助された中熊清氏、校閲については磯部薫氏、尾形隆夫氏、発音校閲については荒磯芳行氏ならびに米語についての多くの助言を与えられた John W Cravens 氏の方々には特にご活躍していただいた。さらに、地味な仕事を熱心に続け、企画から最後の仕上げに至るまで献身的な努力を惜しまず、事実上の編集作業をされた開拓社編集部の方々に心から感謝の念を表したい。

それに、数回に及ぶ組み直しにも忍耐をもってご協力くださった日之出印刷株式会社、また、製版・印刷でご協力くださった近藤写真製版所・開成印刷株式会社、さらには製紙・製本でご協力くださった方々にも感謝する次第である。

ただし、編集者の微才のため、改善しなければならないものが沢山あることと思う。それは、すべて編集者の責任である。

最後に報告しなければならないことは、日本の英語教育界にとって恩人であるとともにこの英和辞典の監修者でもある A S Hornby 氏の急逝である。本辞典の刊行をあれほど待望していた、遠くロンドンに眠る Hornby 氏に本書を献上することによって氏のご冥福をお祈りする次第である。ここに故人に代わって、本辞典の完成にご協力くださった先輩諸賢に対し深甚な感謝の念を表し、併せて、今後この辞典を利用される読者諸賢からお気付きの点などをご教示いただき改訂を重ねていきたいと思う。

1981年8月

笠原五郎

編集・執筆・校閲協力者

秋国忠教	荒磯芳行	石井俊彦	石井勇三郎	石川達朗	伊倉栄一
磯部 薫	岩崎正也	太田隆雄	大塚光子	大橋和男	岡 昌春
尾形良道	尾形隆夫	海 津 脩	金敷典子	神村 捷	川尻一夫
川村淳一	北嶋藤郷	北濃 貢二	喜久秀人	小山晃三	後藤正敏
坂西輝雄	塩沢利雄	清水三雄	白石昭夫	周藤康生	関根宏行
高市美千佳	高屋慶一郎	田口純一	竹内 通	田部 稔	戸田 仁
中川泰成	中 熊 清	野沢孝悦	野津直久	萩原時哉	広瀬裕子
星野耀子	牧田智技	増田節子	松井和弘	松ヶ枝孝之	三浦尚子
矢ヶ崎庄司	行広泰三	J W Cravens	<挿し絵>	大沢泰夫	武井宏允

主要参考文献

- Cowie, A. P. & R. Mackin. 1975. *Oxford Dictionary of Current Idiomatic English*. Vol. 1. London: Oxford.
- Fowler, H. W. and F. G. 1976. *The Concise Oxford Dictionary of Current English*. 6th ed. Oxford.
- Gimson, A. C. 1970. *An Introduction to the Pronunciation of English*. 2nd ed. London. Arnold.
- Gove, P. B. et al. 1966. *Webster's Third New International Dictionary of the English Language*, with Addenda. Springfield.
- Guralnik, D. B. et al. 1970. *Webster's New World Dictionary of the American Language*. Second College edition. New York & Cleveland.
- Hanks, P. et al. 1979. *Collins Dictionary of the English Language*. London & Glasgow.
- Hornby, A. S. 1954. *A Guide to Patterns and Usage in English*. Oxford.
- . 1975. *A Guide to Patterns and Usage in English*. 2nd ed. Oxford.
- Hornby, A. S. et al. 1942. *Idiomatic and Syntactic English Dictionary*. Tokyo: Kaitakusha.
- . 1963. *The Advanced Learner's Dictionary of Current English*. London: Oxford; Tokyo: Kaitakusha.
- . 1974. *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. Revised 1980. London: Oxford; Tokyo: Kaitakusha.
- Jones, Daniel and A. C. Gimson. 1977. *Everyman's English Pronouncing Dictionary*. 14th ed. London: J. M. Dent & Sons Ltd.
- Kenyon, J. S. and T. A. Knott. 1949, 1953. *A Pronouncing Dictionary of American English*. Springfield.
- Lewis, J. W. 1972. *A Concise Pronouncing Dictionary of British and American English*. London: Oxford.
- Long, T. H. et al. 1979. *Longman Dictionary of English Idioms*. London: Longman.
- Morris, W. 1969. *The American Heritage Dictionary of the English Language*. New York.
- Murray, J. A. H. et al. 1884-1928. *The Oxford English Dictionary*, 12 vols. Supplement, 1972, 1976. London: Oxford.
- Partridge, E. 1967. *A Dictionary of Slang and Unconventional English*, 2 vols. 6th ed. London.
- Procter, P. et al. 1978. *Longman Dictionary of Contemporary English*. London: Longman.
- Stein, T. et al. 1966. *The Random House Dictionary of the English Language*. New York.
- Woolf, H. B. et al. 1973. *Webster's New Collegiate Dictionary*. 8th ed. Springfield.

この辞典の使い方

1. 解説図

- 見出し語→2.
- 専門語ラベルは略記号で表示→5.7
- 語源の表示→10.5
- 分節〔つづり字の切れ目〕→2.10-2.11
- 小見出し語(名詞相当語句および派生語)→2.9
- 発音→2.,「発音」(巻末)
- 副詞に密接に結びつく前置詞は《》内に斜字体で示した→5.13
- 見出し語の異形→2.3-2.8
- 語形変化→4.1-4.9
- 動詞型〔巻末の「文型」, 裏見返しの「文型表」参照〕をVPの記号で示し, その用例にはその対応する番号を《》内に示した→7.
- 品詞別を示す→4.1-4.9
- 語法上の指示→5.9
- 〔 〕は言い替えを表す→5.16, 6.6, 7.2
- 語源の表示→10.
- 訳語の補足説明→5.11
- 挿し絵が insect の項にあることを示す
- 品詞は略語で示した→4.1, 略語表(表見返し)
- 比較語を示す→5.14, 「比較語・対語」(巻末)
- 参照語を示す→5.15
- すべての名詞に可算 [C]・不可算 [U] の区別を示した→5.6, 「可算名詞・不可算名詞」(巻末)
- 動詞と結びつく前置詞・副詞・to不定詞・動名詞・節などをその対応する語義とともに《》内に斜字体で示した→5.12-5.13
- 語義の細区分→5.1
- 動詞の訳語にはある特定の主語・目的語にどのような名詞がくるかを()内に示した→5.12
- 用例の区切りを示す→6.3

名詞の複数形→

4.6

名詞と結びつく前

置詞・to-不定詞

句・節をその対応

する語義とともに

示した→5.13

語法上の解説→

5.9

用法上の指示、常

に複数形で用いら

れることを示す→

5.8

語源の表示→

10.2, 10.12

対語の表示、番号

は語義番号に合わ

せてある→5.14,

「比較語・対語」

(巻末)

in-ability [əˈbɪləti] n. (pl. -ties) 1 (NP 1, 2)

[U] 能力、手続 (to do, in): to the best of my ~ 私の力の及ぶ限り / (1) I do not doubt your ~ to do the work. 君はあなたにその仕事をする能力があると信じている / (2) He has remarkable ~ in diplomacy. 彼は外交手続が巧みである。▼ ability の後の動詞は常に to-不定詞の形をとり、of+動名詞は誤り、また、名詞は in を伴う: ~ to design buildings 建造物を設計する能力 / ~ in arithmetic 算数の才能。

2 [U] 賢明; 英知: a man of great ~ 英才。

3 (pl.) 才能: a man of many ~ 多才の人。

[L] → able] — Cf. 1 capacity, talent. ▼

ability は先天的・後天的な才能のいずれの場合にも用いられる。capacity は物を受け入れたり、理解する能力: a seating capacity of 500 500 人の座席収容力 / be within the capacity of children 子供たちが理解できる。talent は先天的才能、および、訓練などによって向上する特別な才能: a talent for music 音楽の才 / a talent for leadership 指導力。2 cleverness. — Ant. 1 inability.

名詞型 [巻末の

「文型」、真見返し

の「文型表」を参

照] を NP の記号で

示し、その用例に

はその対応する番

号を《 》内に示し

た→7.

比較語は、通例、

同義語であるが、

ニュアンスや語法

の違うものがある

ので、誤解を避け

るために解説を施

し、原則として、

用例を示した。比

較語の番号は語義

番号に合せてある

→5.14, 「比較

語・対語」(巻末)

外来語句、印刷の

際に斜体活字を用

いるもの、タイプ

印字の際に下線を

施すものは斜体活

字で示した→2.2

ab in-i-ti-o [əˈbɪnɪʃiu, -niti- / -ou] adv. 最初から、

[L=from the beginning]

発音は [英/米] で

示した→3.1-3.17

語源の表示→10.9

用法上の指示、常

に the を冠して用

いられる場合とし

ばしば大文字で用

いられる場合を示

す→5.8

act [ækt] n. 1 行い、所為: To look a act is a

cruel ~. 無慈悲な行いである / It is an

~ of kindness to help a blind man across

the street. 盲人が通りを渡るのを手伝うのは親切な

行いである。

2 (the ~) 通行、行動。

3 (しばしば A ~) 法令、条例; 判定; 決断(案)。

語義の区分→5.1

語法上の指示→

5.9

同一見出し語で品

詞・語義によって

発音が異なる場合

の表示→3.7

品詞別を示す→

4.2

an act [Act] of God 不可抗力、天災。

an act of grace → grace (名詞)。

the Acts (of the Apostles) 新約聖書の中の一書。

二語以上から成る

複合語・連語の小

見出し語の表示。

できるだけ冠詞は

付けて示した→

2.9

ad-ict [ədɪkt] n. (the ~) (通例、受身形) 行

い(に)かたまる。(the ~) 行い(に)かたまる。

(to) be ~ed to smoking (alcohol, drug) 喫煙(飲酒、薬物)に

かたまる。〜に耽溺している。

— [ədɪkt] n. (受身形) けり人。(特に薬物に)

耽溺(特にお酒)人。(薬物の)常用者、常習者: a

drug ~ 薬物常用者 / an opium ~ おへん常用者。

用例中で、見出し

語に相当する部分

は、原則として、

ティルダ(~)を用

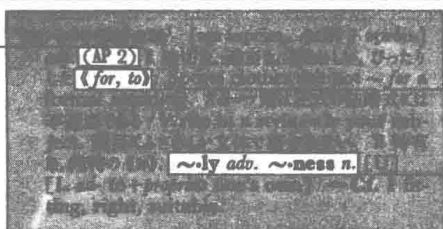
いて示し、それに

付随する語形変化

は斜字体で示した

→6.2

形容詞型「巻末の「文型」，裏見返しの「文型表」を参照」をAPの記号で示し，その用例にはその対応する番号を《 》内に示した→7.



形容詞と結びつく
前置詞・to-不定
詞句・節をその対
応する語義ととも
に示した→ 5.13

派生語の表示. アクセントが変わる場合などには発音記号を示した→
3.15.8.

同形異義語の見出し語には小数字(1,2,...)を付けて区分した→2.14

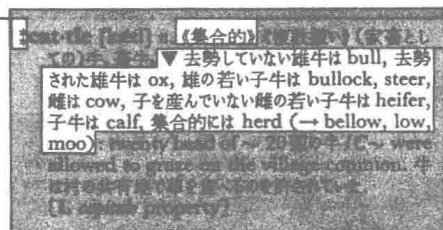
見出し語に相当する部分を中太ティルダ(~)で示した
→ 9.2



形容詞の比較級・
最上級の形を示す
→ 4.8

主語あるいは被修飾語になる名詞の種類を()内に示した→5.12

基本単語を示す。
星二つは最重要語、星一つは次位重要語を示す→
2.1



用法上の指示→
5.8

補足的な解説。動物の鳴き声などは参照語で示した→
5.9. 5.11

不規則動詞の変化
形を示す→4.9



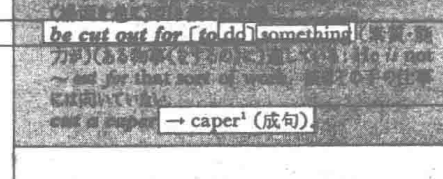
成句の項にあることを示す

自動詞・他動詞の別を示す→4.2



成句→8.

一般に事物あるいは動物を表す名詞・代名詞・名詞相当語句などを表す→6.4



一般動詞を表す→
6.4

caper¹ の成句の項
にあることを示す
→ 8.2

2. 見出し語

2.1 収録語 一般の英語語句のほかに、重要な固有名詞、接頭辞、接尾辞、縮約形、略語、常用外来語句などを見出し語として約6万2000語を収録し、すべてアルファベット順に配列した。この場合、同一のつづりで、小文字・大文字、ピリオドなし・ピリオド付き、ハイフンなし・ハイフン付きの違いのあるものはそれらの順とした。

なお、特に重要な見出し語には、二段階の星標(★[最重要語(約2700語)], *[次位重要語(約6900語)])を付けて利用者の便を図った。

2.2 字体 一般の見出し語はすべて太字の立体活字を用い、外来語句、印刷の際に斜体活字を用いるもの、タイプ印字の際に下線を施すものは太字の斜体活字を用いて区別した。

a-bil-i-ty [əbɪləti] *n.* (*pl.* -ties)

ab in-i-ti-o [əbɪnɪʃiəu / -ou] *adv.*

2.3 つづりの異形 同一語に二種類以上のつづり字がある場合は、現代英語として、最も一般的に用いられる見出し語でその語義などを解説し、使用頻度の低い異形はそこを参照できるように示した。

2.4 英米でつづり方に相違がある語 については、まず英式つづりを掲げ、次に[米]の記号を付けてその該当音節の米式つづりを併記した。また、必要に応じて、米式つづりによる見出し語を別に単独に掲げた。

la-bour, [米]-**bor** [léibə / -bər] *n.*

la-bor [léibə / -bər] *n.*, *v.* [米]=labour.

2.5 異形の使用頻度が同等と思われるときは、原則として、一方のその該当音節のつづりだけを併記した。この場合、両者の発音が同じであれば、発音は後に一括して示した。

ab-er-rance [æbərəns], -**ran-cy** [-rən-si] *n.*

aer-ic, **aer-y** [ɛəri / ɛri] *n.* (*pl.* aer-ics)

2.6 異形の使用頻度が低いと思われるときは、原則として、▼記号を用いて語義の後に、品詞または語義の区分が二つ以上ある場合には改行してそれらの品詞または語義の最後に、異形を中太字の立体活字で示した。

ba-tik [bətik, *bəti:k] *n.* [U].....

▼ **battik** ともつづる。

bar-i-tone [bəritəʊn / toun] *n.* 1.....

2.....

— *adj.*.....

▼ **barytone** ともつづる。

2.7 使用頻度が同等と思われる異形が、ある特定の品詞または語義だけに適用される場合は、次のように示した。

ad-lib [ædlib] *v.t.*, *v.i.*.....

— *n.*.....

— *adv.*.....

▼ *n.*, *adv.* では **ad lib** と二語にもつづる。

al-ley [əli] *n.* (*pl.* ~s) 1..... ▼ **al-leyway** とも言う。 2..... 3.....

2.8 二語以上から成る複合語・連語の見出し語は、異形がある場合には、できるだけ使用頻度の高いと思われるものにその語義などを解説し使用頻度の低い異形はそこを参照できるように示した。

Old Harry [ˈɒl dɪ] *n.*..... ▼ **Old Nick**,

Old Scratch とも言う。

Old Scratch [ˈɒl dɪ] *n.* = Old Harry.

2.9 二語以上から成る複合語・連語で、独立の見出しとして掲げる必要がないと思われるものについては、その複合語・連語の中心的な要素になっている見出し語の語義・用例の後に、成句のある場合にはその前に、改行して中太字の立体活字で小見出し語として示した。この場合、冠詞はできるだけ付けて示した[→2.13, 3.16]。

act [ækt] *n.*.....

an act [Act] of God.....

2.10 分節(つづり字の切れ目) 印刷およびタイプ印字の際に用いられる英米での分節の原則に従って示した。

2.11 二音節以上から成る単一語の見出し語には、太中丸(・)で分節を示した。また二種以上の分節が認められる場合は、最初に掲げた発音に準じた。

2.12 ハイフンのある見出し語の場合は、そのハイフンが分節をも兼ねていることを示す。

2.13 二語以上から成る複合語・連語の見出し語を構成する個々の単語が独立の見出し語として掲げられている場合は分節を示さなかった[→3.11]。また、小見出し語として掲げたものには分節を示さなかった[→3.16]。

2.14 同形異義語 同一つづりでも語源・語義などが異なる語は、原則として、見出

し語の右肩に小数字 (1, 2, 3, ...) を付けて区分した [→ 4.2].

*bank¹ [bæŋk] *n.*

*bank² [bæŋk] *v.t.*

ただし、次のような場合には肩付き小数字は付けなかった。

#bell¹ [bel] *n.*

bell¹ [bel] *v.i.*

Bell [bel] *n.*

2.15 略語 略語を見出し語として掲げたときは、もとのそれぞれの形をセミコロン (;) で区切って、アルファベット順に示した。なお、記号化した略語についても一般の略語と同じに扱った。

a. about; adjective; 【電】ampere; ...

A 【理】angstrom (unit); answer; ...

3. 発音 [→ 巻末の「発音」]

3.1 発音記号 見出し語の直後に発音を国際音声字母 (International Phonetic Alphabet) を用いて [] 内に示した。

3.2 強勢(アクセント) 単音節以外の語に、第1強勢 (primary accent) は [ˈ], 第2強勢 (secondary accent) は [ˌ] の符号で示し、それぞれ強勢のある母音字の上に、二重母音字のときは初めの母音字の上にそれらの符号を置いた。

3.3 同一語に二種以上の発音がある場合は、コンマ (,) で区切って併記し、第二の表記以降では、原則として、共通する部分をハイフン (-) で示した。

of·fice [ɔfis / ɔːfis, ɒf-] *n.*

3.4 単に強勢だけが移動する場合は、発音記号を併記しないで、その音節数だけ太中丸 (∘) を並べ、その上に強勢符号を置いて示した。

ac·co·lade [ækəleɪd / ˈɑː-] *n.*

spec·ta·tor [spekteɪtə / spɛkteɪtər, ˈ-] *n.*

3.5 発音の区切りは、原則として見出し語の分節に一致させたが、その原則に従わなかった場合もある。

3.6 英米の発音を共通に表記するよう工夫を施したが、それぞれ別個に表記することが必要な場合は、まず英音を、次いで斜線 (/) 符号の後に米音を示した。この場合、英音・米音とに共通の発音のほかに、さらに英音あるいは米音があるときは、それぞれ ^英, ^米 の記号を付けてそれらを併記した。

ac·cord¹ [əkɔːd / əkɔːrd] *n.*

ac·tu·al [æktʃʊəl, ^英-tju-] *adj.*

ab·ject [æbdʒekt, ^英-tʃ-] *adj.*

3.7 同一見出し語で品詞・語義によって発音が異なる場合は、原則として、その品詞・語義の前に示した。

ad·dict [ədɪkt] *v.t.*

—— [ədɪkt] *n.*

ad·dress [ədres] *v.t.*

—— *n.* 1 [^英ədres]

3.8 ある特定の専門分野などにおける特殊な発音は次のように示した。

A·bra·ham [æɪbrəhæm, -həm, 【英・宗】ɑːb-] *n.*

3.9 発音を省略することのできる音声を示す記号は斜体活字で示した。また、長音符のときは () 内に包んで示した。

ag·i·ta·tion [ædʒɪteɪʃən] *n.*

e·jec·tor [iː(ː)dʒektə / -tər] *n.*

3.10 強音と弱音のあるものは、それぞれを次のように示した。

and [強 ænd, 弱 ənd, ən, nd, n] *conj.*

3.11 二語以上から成る複合語・連語の見出し語の発音は、その音節の共通する部分を太中丸 (∘) で示し、強勢をその上に示した。ただし、独立の見出し語として掲げてない語が含まれている場合は、その語の分節と発音を示した [→ 2.13, 巻末の「発音」]。

accademic freedom [ˌækəˈdɛmɪk ˈfriːdəm] *n.*

a·cryl·ic fiber [ækɹɪlɪkˈfaɪbə / -bər] *n.*

3.12 不規則な変化形には、原則として、発音を示した。また、規則変化をする語の場合でも、必要に応じて、発音を示した。この場合、見出し語の発音と共通する部分をハイフンで示したものもある [→ 4.]。

3.13 発音上の注意すべき事項がある場合は、原則として、発音記号の直後に▼記号を用いて解説を施した。

3.14 外来語句および英米以外の固有名詞については、その発音の英語化の程度がさまざまであるので、それらの点を十分に考慮して近似の英語音を示した。

chan·son [ʃɑːnsɔːŋ / ʃænsən] *n.*

Goe·the [ɡóːtə / ɡér-] *n.*

3.15 派生語については、見出し語の発音から推して自明であるものには発音を示さなかった。ただし、自明でないものには、発音のすべてあるいは一部分を示した。

*a·like [əlaɪk] *adj.*

~ness *n.* [U]

ac-ro-bat-ic [ækroʊbætɪk] *adj.*-i-cal-ly [-ɪkəli] *adv.*

3.16 小見出し語として掲げた二語以上から成る複合語・連語には発音を示さなかった[→2.9, 2.13].

3.17 用例, 用法上の解説などの中で, 必要に応じて, 発音または強勢符号だけを示した場合もある。

4. 品詞と語形変化

4.1 品詞 各見出し語の品詞表示は, 原則として, 発音記号の直後に品詞の略語を斜体活字で示した。ただし, 略語と二語以上から成る複合語・連語の小見出し語には, 品詞を示さなかった。また, 接辞には, 接頭辞・接尾辞のそれぞれの略語で示し, 一般に連結形と言われるものは別扱いとした[→略語表(表見返し)].

4.2 同一見出し語に二つ以上の品詞がある場合は, 原則として, 太ダッシュ(—)によって品詞の変わり目を改行にして示した。この場合, 品詞などが変わるにつれて見出しを改めたものもある[→2.14]。また, 自動詞・他動詞の区別を示す場合にも, 原則として, 太ダッシュの直後にそれぞれの略語を斜体活字で改行にして示した。

4.3 文法上, 特に説明を必要とする語には, 品詞表示の直後に, 《人称代名詞》, 《関係代名詞》, 《関係副詞》などとして示したのものもある。

I [強 hi:, 弱 i:, hi, i] *pron.* 《人称代名詞》.....

4.4 小見出し語として掲げた派生語には, 品詞を示した。

4.5 語形変化 名詞・代名詞・形容詞・副詞・動詞・助動詞の変化形のうち, 不規則変化をするもの, 変化形が二種以上あるものについては, それぞれ品詞表示の後に変化形のつづり字を中太字の見出し語に対応する立体あるいは斜体活字で, 必要であれば発音も併わせ, () 内に示した。この場合, 見出し語の部分が発節も含め変わらないときは, それを中太ティルダ(˜)で示したものもあり, あるいは, 3 音節以上の語のときには, 中太ハイフン(-)を用いて見出し語と共通する部分を省略したものもある。さらに, 二種以上の変化形があるときは, それぞれを *or* で区切って併記した。

また, 規則変化に属する語でも, つづり

や発音などに注意を要する場合は, その変化形を掲げたものもある。

4.6 名詞 不規則の複数形のほかに, つづり字あるいは発音の上だけの不規則形も示した。この場合, 斜体活字で複数の略語 *pl.* を付けて示した。

man [mæn] *n.* (*pl. men*)

house [haus] *n.* (*pl. hous-es* [háuzɪz])

また, つづり字が -f, -fe, -o, -th, 子音字 + y で終わる語, その他注意すべき語についてはその複数形を示した。

leaf [li:f] *n.* (*pl. leaves*)

roof [ru:f] *n.* (*pl. ~s*)

knife [naɪf] *n.* (*pl. knives*)

po-ta-to [pə'teɪtəʊ / -təʊ] *n.* (*pl. ~es*)

pi-an-o [pi'ænəʊ / -əʊ] *n.* (*pl. ~s* [-z])

path [pɑ:θ / pæθ] *n.* (*pl. ~s* [pɑ:ðz / pæðz, pæθs])

cit-y [sɪti] *n.* (*pl. cit-ies*)

ab-a-cus [æbəkəs] *n.* (*pl. -ci* [æbəsaɪ] *or* ~es)

fish [fɪʃ] *n.* (*pl.* 《集合的》~, 《個別的または種類を示すとき》~es)

Ad-ju-tant-Gen-er-al [ædʒutəntdʒən-ə-rəl] *n.* (*pl. Ad-ju-tants-Gen-er-al*)

prince royal [ˈɹɔɪəl] *n.* (*pl. princes royal*)

mon-goose, -goos [mɒŋgu:s / mɒŋ-] *n.* (*pl. mon-goose-es*)

4.7 代名詞 人称代名詞などについては, その必要があれば, 次のようにその変化形を示した。

I [ai] *pron.* 《人称代名詞》一人称単数主格。所有格 *my*, 目的格 *me*. *pl. we.*

that [ðæt] *adj.*

— *pron.* (*pl. those*) 《指示代名詞》.....

4.8 形容詞・副詞 不規則なもののほかに, -er, -est が付く比較級と最上級とをコンマで区切って示した。

good [ɡʊd] *adj.* (*bet-ter, best*)

free [fri:] *adj.* (*fre-er, fre-est*)

big [bɪɡ] *adj.* (*big-ger, big-gest*)

strong [strɒŋ / strɔ:ŋ] *adj.* (*strong-er* [strɒŋɡə / strɔ:ŋɡə], *strong-est* [-ɡɪst])

また, 同一語で *more*, *most* を付けて変化することもあるときは, 双方をセミコロン (;) で区切って示した。

like [laɪk] *adj.* (*more ~, most ~;*

【主に時】lik-er, lik-est)

like-ly [laikli] *adj.* (like-li-er, like-li-est; しばしば more ~, most ~)

4.9 動詞 不規則な過去形, 過去分詞をコンマで, 必要に応じ, 現在分詞をセミコロンで区切って示した。この場合, 過去形と過去分詞が同一つづり字のときは, ただ一つの形のみを示した。

grow [grəu / grou] *v.* (*v.i.* grew, grown)

lie [lai] *v.i.* (lay, lain; ly-ing)

dive [daiv] *v.i.* (dived or 【米口】 dove, dived; div-ing)

rid [rid] *v.t.* (rid or rid-ded; rid-ding)

bid [bid] *v.* (bid; bid-ding)

また, つづり字が -e, -c, 子音字 + y で終わる語, 語尾の子音字が重なる語, その他注意すべき語についてはその変化形を示した。

a-buse [əbju:z] *v.t.* (a-bused; a-busing)

en-a-ble [inéibl, en-] *v.t.* (-bled; -bling)

traf-fic [træfik] *v.* (traf-ficked [-fikt]; traf-fick-ing)

bur-y [béri] *v.t.* (bur-ied; bur-y-ing)

ad-mit [ədmit] *v.* (ad-mit-ted; ad-mit-ting)

trav-el [trævl] *v.* (trav-elled or 【米】 trav-eled; trav-el-ling or 【米】 trav-el-ing)

5. 語義・語法・用法

5.1 語義の区分 多義にわたる場合は, 品詞ごとに 1, 2, 3..... の番号を付けて区分した。さらにそれらの細分が必要な場合には, a, b, c..... を用いて区分した。

【強 ei, 弱 ə】, an 【強 æn, 弱 ən】 *art.*

▼次にくる語が.....

1 一つの, 一人の。▼通例, 訳さないことが多い。a 【複数名詞に用いる.....】

5.2 語義の配列 英米によって使用頻度が異なる場合があるが, 原則として, そのいずれによっても使用頻度が高いと思われるものから順に配列した。この場合, 英米のいずれかでしか, 主として, 使用されないときには, その使用頻度が高いと思われるもの, 配列上, 後に置いた。

5.3 語義・語法解説などでは, 当用漢字・新仮名遣いを原則として用いた。この場合,

専門語などで当用漢字以外の漢字を用いたときにはかなを付けた。

5.4 訳語の併記 訳語を併記する場合, 同類の訳語の間はコンマで区切り, それらをやや大きく区分するときにはセミコロンで区切った。

*ad-mis-sion [ədmiʃən] *n.* 1 (NP 2) [U]

(社交界・学校・劇場・博物館などに) 入ること, 入ることの許可; 入場【入学, 入会, 入国】(の許可【権利】):

5.5 訳語の代わりにイコール記号 (=) の後に英語を示したものは, その語義ではその英語の訳語に同じであることを示す。

ac-cep-tor [əkseptə / -tə] *n.* 1 = acceptor. 2

5.6 [C] と [U] 名詞の可算 (countable), 不可算 (uncountable) は [C], [U] の記号を用いて示した。この場合, 原則として, [U] に, あるいは, [C] [U] とともに用いられるときに示した。また, とともに用いられるときには, 使用頻度の高い方を先に [U, C] あるいは [C, U] と併記して示した。

なお, 語義の全体に適應する場合は, 品詞表示の直後, あるいは, 文型表示があるときはその直後に示し, また, ある特定の語義区分だけに適應する場合には, その語義区分番号の後に示した。さらに, ある特定の訳語だけに適應する場合には, その直前に示した。

*ad-mi-ra-tion [ədmeriʃən] *n.* [U]

1 2

†ad-vice [ədvaɪs] *n.* 1 [U] 2 [C]

af-fin-i-ty [əfɪnəti] *n.* (pl. -ties) (NP 2) 1 [C] 2 [U] ; [C]

5.7 見出し語または語義が, 特定の地域・専門分野・時代などに限定される場合は, 原則として, 【 】内にそれぞれの略語で次のように示した [→略語表(表見返し)]。

【英】【米】【英口】【米口】【理】【化】【生】

【植】【英史】【英・宗】【動・植】.....

この場合, ある品詞のすべての語義に適應するときは, 品詞表示の直後に, あるいは, 語形変化・語法・用法の指示・文型表示などがあるときにはその後に示した。また, 特定の語義区分だけに適應するときは, その語義区分内に示した訳語の直前に, さらに, 特定の訳語だけに適應するときには, その訳語の直前に示した。